

こども教育会議 会議録

<p>日時</p> <p>平成27年5月19日(火) 13:30~14:40</p>	<p>場所</p> <p>武雄市役所 4階会議室</p>	<p>出席</p> <p>小松市長 浦郷教育長、 教育委員(諸石、古場、前田、河内、岡本、森、犬走、奥川、貝原) 中野つながる部長、溝上教育部長、大宅教育部理事、 諸岡こども部長 教育総務課(樋渡係長)、学校教育課(徳永課長) 文化学習課(中尾参事、錦織係長) 未来課(牟田課長、田寄係長) 企画課(山田課長、松尾係長、富永、岡本)</p>
<p>1. 協議件名</p>		<p>第2回こども教育会議 (放課後の過ごし方について)</p>

議事録

<p>内容</p>	<p>1 開会 (進行: 中野つながる部長)</p> <p>2 市長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後児童クラブは、平成27年4月から対象学年を小6まで拡大し、登録者が前年比133% (603⇒804人) となった。また、子育て総合支援センター内に放課後センターを設置し、専任職員1名配置、質の充実を図っている。 放課後を考える上で、安全安心の確保が最優先であるが、その上で行政目線ではなく、こども目線でどうあるべきか、視点の転換が必要だと思う。 市内一律こうと決めるではなく、行政で最低限の水準を維持しつつ、地域特性に応じて、9町それぞれの特徴を活かして、ばらつきがあってよいと思う。 <p>3 議事 (議事進行: 小松市長)</p> <p>(1) 意見交換 テーマ「放課後の過ごし方について」 ⇒冒頭に事務局から、放課後の過ごし方関連する事業(放課後児童クラブ、放課後子ども教室、社会体育活動、ファミリーサポート事業)について、概要を説明した後、出席者で意見交換を行った。</p> <p><出席者からの意見> (全般)</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後の居場所は安全安心が大前提である。 地域で育てる観点が必要である。 さまざまな境遇の子どもたちがいるということも踏まえて考える必要がある。 居場所の確保に民間の力を活用するべきでは。 <p>(放課後児童クラブ、放課後子ども教室関連の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年の拡大、放課後センターの設置により質の充実が図られよかった。 学年の拡大で、スペースの問題がある。現在の部屋、校舎のほか公民館の活用する方法もある。 放課後児童クラブと放課後子ども教室と学校の連携をさらに図り、情報共有や意見交換を積極的にすべきである。指導員のみならず、地域の力を巻き込んで、専門性と地域の力をうまく連携すべきでは。 放課後児童クラブの料金(月2000円)が安価で、安易な利用につながっているのではないか。ファミリーサポートの料金(1時間700円)とのバランスも図るべきではないか。
-----------	--

- ・保護者の迎えを心待ちにしている子どももいることから、安易な時間延長はすべきではないのではないか。もちろん個々の家庭の事情があるので一概に言えないが。
- ・子ども目線の考えに加え、保護者目線、支援員目線での考えも必要ではないか。
- ・放課後児童クラブの時間延長については、延長することによる影響などを整理すべきである。

(社会教育・社会体育関連の意見)

- ・社会体育に町民・市民が指導者として参加し、盛んになっている。
- ・社会体育活動は、以前に比べれば子どもの興味にあった種目、活動が増えてきた。以前は学校の先生がすべて担当していたが、今は地域の指導者、社会人が指導しているのはいい取組である。
- ・文化継承の活動も、地元のサポートを得ながら幅広く行っていった方がいいのではないか。
- ・自治公民館の活用もあるのでは。北方の夏休み教室は参考になる取組例である。

(2) 次回開催について (予定)

- ・開催日 : 6月24日(水) 13:30~14:30
- ・討議内容: 「ICT利活用教育について」

4 その他

- ・なし

5 閉会 (進行: 中野つながる部長)